



黄河の森

K F G

発行／特定非営利活動法人
黄河の森緑化ネットワーク
常務理事・事務局長／矢野正行
編集責任者／小川良太

〒650-0011
神戸市中央区下山手通り2丁目12-11
神戸華僑会館内
TEL・FAX:078-392-8328
E-mail:kouganomori@s6.dion.ne.jp
URL:http://www.kobe-chinese.com/kouganomori
IP:05031111874



認定証の交付を受ける（神戸市役所）



ああ あの大河 太古より 流れる誇り
ああ その緑 永久に たやさぬ心
燃えたつ生命 ここに ここに

CONTENTS

- P.2 2020年コロナ禍の活動と2021年の事業
認定法人の継続が決まる
六甲住吉台の植樹地の今
- P.3 庭木の健康診断24
絵本からのメッセージ31
- P.4 中国便り「冬休みの子供たちを取り巻く危険」
事務局からのお知らせ

2020年コロナ禍の活動と2021年の事業

『黄河の森緑化ネットワーク』
事務局長 矢野正行

昨年2020年は新型コロナウイルス蔓延のため、2月末には全国の小・中学校が一斉休校になり、また3月には全国に緊急事態宣言が発令され、不要不急の外出自粛が要請されました。このため『黄河の森緑化ネットワーク』としても定例業務の、19年度末の理事・監事会や会計監査が通常通りには開けず書面での開催を余儀なくされました。

毎年5月末には開催している通常総会についても、緊急事態宣言が解除されたとは言え三密を避けるためにも、一堂に数十名以上集まるのは良くないとの判断から、会場の確保を始め諸準備を進めていましたが、最終的には書面での開催に切り換えざるを得ませんでした。また、2020年は神戸市から承認を頂いている「認定非営利活動法人」の期間が5月に終了するため更新の必要がありました。このため2月中旬から資料を作成し神戸市に提出したのですが、コロナ禍での密を避けるため書

類の審査が出来ず、10月まで承認が遅れました。この間「認定非営利活動法人」としての領収書を発行できず、ご寄付をいただいた皆様には大変なご迷惑を掛けてしまいましたが、なんとか10月には必要手続きが完了し、領収書の発行が出来るようになりました。

中国での植樹活動につきましては、2018年度で「日中緑化交流基金」の助成事業が終了したのですが、2020年末、日中友好会館から新助成事業として「日中植林・植樹国際連帯事業」の募集があり、内モンゴル・オトカ前旗での「沙漠化土地緑化事業」を申請しました。採否は2021年3月中旬には発表されます。ワーキングツアーの実施も日中両国による渡航制限が発令され実現できませんでした。9年間にわたる植樹活動地の事後管理は、費用の援助を通じて現地のカウントパートにまかせています。しかし年に一度は様子を確認したいとは考えております。

しかし、渡航制限のある現在ではその実現は困難な状況です。今は海外での活動が困難な時期ですが、市民間による草の根の交流を継続したいと考えております。

国内活動としての六甲山住吉山手での植樹活動は、理事を中心とする有志の人々による9月の下草刈りだけを行いました。

2020年は、新型コロナウイルスが猛威を揮った1年で、NPOとしての十分な活動が出来ず、歴史散歩や忘年会等の行事も開催できなくなりましたが、2021年度に向けては良いスタートが切れるよう、準備万端を整えておきたいと考えています。会員の皆様には大変なご迷惑・ご心配をおかけしていますが、引き続きご支援・ご理解を賜りたいと思っております。

最後になりましたが、会員の皆様には健康に留意の上お過ごしいただき、元気な姿で再会できる日を楽しみにしております。

認定法人の継続が決まる

昨年「認定特定非営利活動法人」の認定更新時期を5月には迎えるため、審査書面の準備を年初より進めてきました。しかし感染症の拡大により神戸市による審査が延期されていきました。9月10日、一時期感染症が下火になったことにより、「神戸市企画調整局つなぐラボ」による検査を事務局のある神戸華僑会館で受けました。当日は3名の担当者により会計処理簿を中心として、事業実施書類を理事3名の立ち合いの下に検査が実施されました。午前10時から午後3時までの検査の結果、特段の指摘・是正事項も無く終了しました。書類については適正であり、会計簿についてもわかりやすく丁寧に作成・処理されているとの評価をいただきました。

そして10月12日に神戸市役所において認定式が行われ、神戸市企画調整局地域協働担当部長より認定証が交付されました。

六甲住吉台植樹地の今

2004年から始めた六甲住吉台の植樹地では、木々は大きなものでは7~8mの高さにまで成長しています。しかし土壌や気候の影響で毎年一定の割合で活着せず枯れる苗も相当数あります。そのため毎年3・6・9月には補植と下草刈り作業の活動を行ってきました。

植えている樹種は治山治水を目的としているので、コナラなどを中心とした広葉落葉樹です。また山桜・楓も植えていますので「花」・「紅葉」を楽しむことができるのですが、どちらも見ごろは定例活動時期とは少しずれがあるのが残念です。

数年前からは植樹地への上り口横の湧き水地には、イノシシによる「ヌタ場」（泥水浴び場）ができています。コナラなどの「ドングリ」が実るようになったためだと考えられます。また、樹間の柔らかい地面には掘り返した跡も見られます。これもイノシシが地中のミミズなどを探した跡です。その他、春には枝の新芽の先を齧った跡もみられ、植樹地には動物たちの活動の痕跡も認められるようになってきております。



昨年9月の下草刈り



ヌタ場

私と環境(33) 庭木の健康診断 ②4

庭木の手入れ 《つる植物》

樹木環境研究会「ミルフィーユの会」
天野孝之

今回からしばらく「つる植物」の話をしていきます。

日本には多くのつる植物が生育していますが、樹木類を頼って登攀する植物も多くあります。登攀された樹木は、日光が遮られ、また樹冠内は通風が妨げられ、病虫害の繁殖場所にもなり、生育が阻害されます。

つる植物は生育が旺盛なためその駆除が困難で、林業上邪魔者扱いされ、これらを排除する考えが強くあります。が一方ではつる植物は壁面緑化、緑のカーテン、観賞用、ひもや籠の細工物、果実酒など暮らしの中で重宝されていることも事実です。またマント植物としてつる植物の果たしている役割は大きいですが、防犯上森の中が見通せないために取り除かれることも多くなってきました。

つる植物は、対象樹木を特に選ばず登攀し、種子が落ちた場所で旺盛に生育し、繁殖していきます。今まで見聞したつる植物の事例を紹介していきます。

ここでは、つる植物に被覆されている樹木類を「樹木」、被覆している樹木を含む植物を「つる植物」といいます。主につる植物が被覆している樹木の高さを、境栽木(1m以下)、低木(1-2m)、中木(2-5m)、高木(5m以上)、に分け、つる植物名の後に記しました。境栽木とは、敷地の周囲、道路などに沿って帯状に植えられた樹木を言います。

1) アオツツラフジ (ツツラフジ科 Cocculus trilobus) : 境栽木 - 低木



(写真1 アオツツラフジ)

籠の材料に適した丈夫なつるで、5月末までには樹木の上に覆いかぶさります。茎で樹木に絡まり伸びていくため、茎の切除で取り除くのは比較的容易ですが、量的に多く除去は困難を極めます。よく似たのにツツラフジがありますが、冬芽は無毛、葉柄はアオツツラフジより長い、葉の変異が大きいなどで区別できます。落葉樹で、つるは冬季でも残り、駆除するためには、根系除去が必要です。写真は秋に実を付けた状況です。

2) アメリカネナシカズラ (ヒルガオ科 Cuscuta pentagona) : 境栽木 - 低木



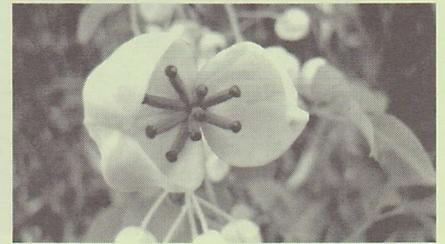
(写真2 アメリカネナシカズラ)

アメリカ原産の外来寄生植物です。

葉緑素を持たない全寄生植物のつる植物で、赤いつるを四方に伸ばし、宿主に覆いかぶさります。自生のネナシカズラ(C. japonica)もあり外見は同じように見えますが、ネナシカズラは花柱が1個しかないので区別できます。花は、7-10月に咲きます。寄生された枝幹を見つけ除去します。

3) アケビ類 (アケビ科 Akebis spp.) : 境栽木 - 中木

アケビ(A. quinata)、ミツバアケビ(A. trifoliata)、アケビとミツバアケビの雑種とされるゴヨウアケビがあります。4月以降急速につるを伸ばし、その伸びは非常に早く、地際からもよくつるを出します。つるが樹木に巻き付くので、中木に絡まったつるを引っ張って取り除くことは困難です。また境栽されたつつじ類などの株元から発生したつるの株除去も困難です。つるは籠などの細工物に利用され、重宝されますが太いつるは少ないです。液果(果実)には多数の種子を含み、鳥類が好んで採餌し種子は排糞とともに巻き散らかします。このため至る所に実生苗ができ、駆除は困難です。幼苗の早期抜き取りか、太い根茎に農薬(商品名:ケイピンエース)の施用が推奨されます。アケビ類は雌雄異花同株で、写真3は雌花です。



(写真3)



絵本からのメッセージ 31

「かもさんおとおり」

畑中弘子(児童文学者)

コロナ禍の中、時々長い冬眠をしているような気持ちになってしまいます。とはいえ春は間近！ 元気に外にとびだし身体を動かし、見たいものを見、食べたいものを食べ、仲間たちと思いっきり会話を楽しむ「春」が待ち遠しい……。今回紹介する絵本は気持ちを「春」にしてくれる、愉快で楽しい絵本です。

内容は鴨の親子の引っ越し。鴨のマラードさんとマラード奥さんはチャールズ川の中洲に巣を作ることに決めました。無事八羽のひなが生まれ、今度はもっと広いボストン公園の池に移り住むことにしたのです。チャールズ川から公園の池まで行くには街の中を通らなければなりません。「ぐあっ！ ぐあっ！ ぐあ！」と、車道を一列に並んで大行進。おまわりさんがとんできて交通整理をしパトカーまで出動します。その鴨の親子の真剣な表情や大騒ぎの街中の様子が繊細なタッチで見事に描かれていきます。そしてやっと公園の池に到着です！ 子から孫へと長く読み継がれているすばらしい絵本です。



文・絵：ロバート・マックロスキー
訳：わたなべ しげお
(福音館書店)

中国
便り

冬休みの子供たちを取り巻く危険

楊 玉 麗
(中国 銀川市在住)

—子供達に安全な日常を—

今回は学童期の子供たちを取り巻く、冬季の事故について記してみました。銀川市は中国西北部の内陸にあり、日本の東北地方とほぼ同緯度に位置します。そのため冬季には厳しい冷え込みにより、池や湖は氷に覆われます。更に新年の行事もあります。このためこの時期に特有の、危険な事故が発生することも度々あります。

子供達にとって最も楽しみなことの一つは、夏・冬の長期休暇です。現在中国は冬休みの真最中です。この時期は新年を迎えることもあり、子供達にとっては最も開放感がある楽しい日々です。しかし、一方でこの時期は子供達にとっては、危険な事故が多発する季節でもあります。最近、子供達の身の周りで重大な事故が連続して発生しました。そしてこの事故は報道によって全国に知られ、子供達の安全に対する警戒を呼びかけることになりました。

休暇が始まって幾日も立たない1月10日、銀川市内のある地区で一人の9歳の子供が路地で遊んでいる際に、近所の小さな玩具店で買ってきた爆竹に点火して、下水道のマンホールの蓋の小さな穴から中に投げ入れました。下水道にはガスでも溜まっていたのか、大きな爆発が発生しました。その結果マンホールの蓋はビルの6階の高さにまで吹き飛び、そのおろいで小学生は死亡しました。その場面は見るに耐え難い無残な光景でした。記者の報告によると、子供の両親はその地区で間借りをして零細な商売をしており、その子は来月には10歳の誕生日を迎えるところでした。このような間借りで零細な商売をしている両親は安全に対する認識・自覚が低く、その家庭環境では子供に対する安全教育をする意識も余裕も無く、十分に行き届いているとは言えません。今回の事故は、そこに問題があると私は考えています。

中国には新年を迎えるにあたり、大砲を発射する習慣があります。こ

れは新年の厄病神を、追い払うためのものだと言われています。最近の中国では花火や爆竹を鳴らすことは禁止されています。しかし、この禁令は厳格には守られていません。そして零細な商店では禁令を無視し、子供達の遊びに迎合して花火が販売されています。毎年、花火・爆竹の暴発による危険な事故が中国全土では無数に発生しています。警察はこの状態を、もっと厳しく取り締まる必要があるとおもいます。

今日、銀川市内の結氷した湖面で遊んでいた一組の祖父と孫が、氷を踏み破り水中に落ちたとの報道がありました。当時、銀川市内は冷下7度の気温でした。急報で直ぐに駆けつけた警察と救助隊員により助け上げられ、幸いにも二人には生命の危険はなかったようです。

孫は未だ年齢も行かず何もわからないでしょうが、祖父の取った軽率な行動に対しては何とも腹立たしさを覚えます。厳寒期になったとは言え、湖水の表面が十分に氷結しているかどうかは明確ではありません。その上を走ったり・滑ったりすれば、簡単に氷が割れる危険性があります。毎年氷が割れ、水中に落下して溺死する事故が発生しています。氷上で遊ぶことには細心の注意が必要です。そして軽率な行動は厳禁です。

我が家の高校生の長男が、昼休みに学校から「弟は無事だろうか」と電話をかけてきました。私は、「それだけ。何も起きていないよ。急にどうしたの。」と答えました。長男は新聞のニュースを見て、「急に弟のことが心配になったので、無事かどう

か確かめたかったから。」と答えました。私はこの返事を聞き、長男の成長したことを実感し、感慨を覚えました。

我が家の下の息子は6歳で小学校1年生です。現在は冬休み中なので、一人きりで留守番をすることになります。彼は「悪い人が来てドアをノックしたら怖い。」といいますが、私は彼が一人で火や水遊びをしないかと心配です。家の中はコードやその他、危険なものが多くあります。そこで私は息子を姑の所に連れて行くことにしました。都合の良いことに、姑の所には2年生の女の子の孫がいます。二人は丁度年齢も近く、良い友達になって遊んでくれます。

夕方の職場からの帰路、子供を引き取って連れて帰ることにしています。中国の家庭では、子供の面倒を観ることのできる高齢者が居ます。これは中国の社会にとっては大きな財産です。

中国と比較すると日本では安全教育も行き届いており社会の治安も良好で、安全面での問題は比較的に少ないと思います。そのため日本ではこのような事故・事件の発生は少ないのではないのでしょうか。



With a long history, paper cutting has little size and profound meaning under delicate cutting. Every paper cutting is an exquisite artwork!

事務局からのお知らせ

【通常総会の開催】

新しい年もコロナ感染症の猛威の中で明けました。各種社会活動についても予断の許さない状況です。このため例年5月下旬に開催している通常総会についても、現時点ではどのような形で開催できるか見通せておりません。開催方法・時期については4月以降に感染症の状況を判断し、文書・ホームページにてお知らせします。

ワーキングツアーについては感染拡大が長期化し、中国への渡航は困難な状況が続いているため実施は困難と判断しています。

【六甲山クリーン&グリーン活動】

植樹地では毎年3回の活動を行ってきましたが、現在の感染症の状況では活動の実施を見合わせざるを得ない状況です。補植した苗を始め木々の様子を観察するため、年1回程度の現地観察は理事を中心として実施する予定です。

なお、3月の活動は中止とします。